

令和7年度 文部科学省委託事業 いじめ対策・不登校支援推進事業
いじめ・不登校等の未然防止等に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究

「心理分野に強みや専門性を有する教師の 育成のための教職員向け研修プログラム」

第12章

チーム支援におけるコンサルテーション ・コーディネーション

福岡教育大学・教授

西山 久子

元東京成徳大学・教授/(一社)スクールセーフ
ティネット・リサーチセンター・代表理事

田村 節子

※所属は2026年3月時点のものです

第12章の目的

1. 個別のチーム支援の基盤となる教育相談等の体制づくりの理解
2. 具体的なケースに沿ったチーム支援の実践的な理解

1. チーム支援における コンサルテーション・コーディネーション

児童生徒支援における用語の整理

コンサルテーション:異なる専門性をもつ複数の者が、援助対象である

問題状況について検討し、よりよい援助のあり方を話し合うプロセス

コーディネーション:問題状況の改善に必要な資源を統合的に調整し、

内外の関係者で検討し合意形成した支援構造に基づき分担すること

コーディネーションの背景となるポイント

- 誰一人取り残されない学びの保障:不登校対策「COCOLOプラン」
- 「校長のリーダーシップ」により児童生徒支援を促進させる必要性

コーディネーションの基盤となるリーダーシップの考え方

- 専門的力量をもつ者が、それぞれの得意分野においてリーダー役を果たす、分散型リーダーシップ(鎌田, 2024)が今日的な体制の考え方

1. (1) チーム作りと適切な会議の設定

① 定例会議：各学年代表と主要な指導・援助のリーダーによるコーディネーション

中学・高校の定例(コア)会議

小学校の定例(コア)会議

1) 学年会での協議

2) 支援ニーズで整理

三次的支援：支援は適切か？

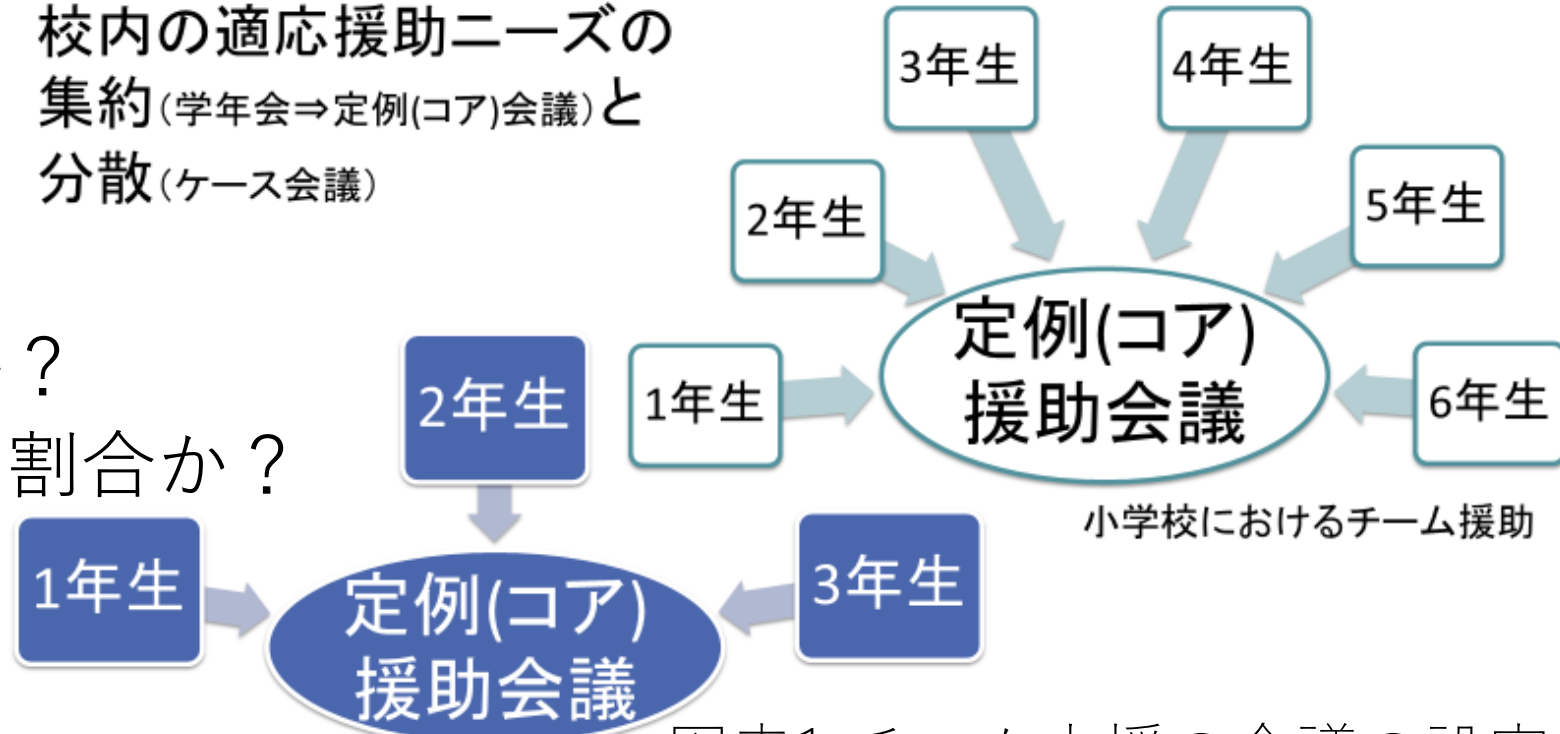
二次的支援：ハイリスクの割合か？

3) 全校で行う実態把握

(スクリーニング)を

適宜実施しているか？

校内の適応援助ニーズの
集約(学年会⇒定例(コア)会議)と
分散(ケース会議)



中学校・高等学校におけるチーム援助

図表1 チーム支援の会議の設定
(西山(2023)をもとに修正)

② ケース会議：個別の状況や進捗状況に応じて臨時に開始される会議⇒次項で演習

1. (2) 管理職との情報共有や連携(図表3参照)

教育相談をはじめとする、児童生徒支援に関わる体制づくりにおける構成員

体制づくりをリードする構成員(=心理に強い教師・児童生徒支援の担当者)とは

- 教育相談コーディネーター
- 特別支援教育コーディネーター
- 養護教諭
- 生徒指導教師

➡ こうしたメンバーから個別事案の内容に合わせた教職員が加わり、学級担任や学年主任と共にチームを構成

- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカーほか

➡ 子ども支援に資する多職種協働を促進する外部資源

校長のリーダーシップのもとで展開されるチーム支援

管理職示す学校経営の方向性に基づき推進する。

教育相談コーディネーターや生徒指導教師および特別支援教育コーディネーター等の児童生徒支援に関わる役割を務めるなら、チーム支援の遂行に向け管理職が適切な判断を行うことができるような情報を提供することができる。

図表3 児童生徒支援体制づくりに必要な要素(西山, 2025)

領域	項目	内容
① 人事面	1. スクールリーダー	教育活動全体をふまえた生徒指導・教育相談及び児童生徒支援の方向性の提示
	2. コーディネーター	全体を俯瞰した生徒指導・教育相談・児童生徒支援等の遂行
	3. 推進メンバー	定例会議メンバー(例: 管理職, 教育相談/生徒指導担当, 特別支援教育Co, 学年主任等)
	4. 校内外の援助資源	個別課題で協力を得る校内外の援助資源(例: スクールカウンセラー, スクールソーシャルワーカー, 相談機関, 療育機関, 福祉機関, 医療機関など)
② プランニング	1. 年間計画	教育相談等の児童生徒支援に関わる活動の定例化と予防的・開発的取組を含む
	2. ミーティング	目的の明確な会議の設定(進捗状況を把握する定例(コア)会議, 問題事案に対応する臨時会議, 具体的な課題解決会議)
	3. 行事	定例行事を契機とした支援と対象児への配慮。子どもの成長に役立つ行事の設定と支援
③ ツール	1. スクリーニング	ニーズ把握のためのチェックリストによるスクールワイドの実態把握や個別の集約シート
	2. ケース会議手順表	会議の円滑な遂行のための定式化した進行手順を示したもの
	3. ガイドライン	相談室・校内教育支援教室などの運営や生徒指導・教育相談に関する規定
	4. マニュアル	チーム援助などの運営の流れや各担当としての役割の標準化
	5. 資源マップ	児童生徒支援に関わる校内外資源(施設・人材・行政機関等)マップ(一覧)。定期的に更新
④ ルール	1. 学校経営基本計画	生徒指導・教育相談などの方針の根拠となる全体指針
	2. 校訓・校則	規範行動の拠り所となる生徒指導・教育相談・児童生徒支援の基本理念とルール
	3. 役割分担	児童生徒支援に関わる担当者が担う役割の明確化と整理
	4. 倫理綱領	学校全体・教育委員会レベルで遵守すべき行動規範
⑤ 説明責任	1. 広報	学年・学校単位で発信する共通理解の内容提示
	2. 教員研修	共通理解すべき内容・対策を確認する研修(含: 事例検討)
	3. エビデンス	児童生徒支援の根拠となる課題・実践の進捗や成果の確認・修正に向けた情報整理

1. (3) 教育相談等の体制づくり

- ① 人事面：それぞれの役割を担う適切な担当者が役割を果たすこと
- ② プランニング：教育相談・児童生徒支援の年間計画，定例のコア会議・臨時の会議，成長促進的な行事が機能していること
- ③ ツール：SOSチェックリストをはじめ，適切なツールがある
- ④ ルール：学校全体の方向性，児童生徒向け・教員向けルール
- ⑤ 説明責任：広報・教員研修や，児童生徒支援の結果の集約

③ツールの例：図表2 SOSチェックリスト(中学生用・名簿形式)
(石隈(1999)をもとに修正) 調査日[年 月 日]

No.	氏名	学習面		心理・社会面				進路面		健康面		全般		合計											
		勉強への取り組みの変化	テスト成績の急激な降下	授業中眠ることの増加	授業中ぼんやり	自分への否定的イメージ	学校での暗い表情	イライラすることの増加	学級内での孤立	家族との関係の変化	教師に対する態度の変化	服装や言葉遣いの変化	関心をもてる対象の減少		得意なことへの減少	決心がつきにくい	進学についての態度変化	食事の様子の変化	けがや病気	頭痛や腹痛	眠そうな顔	遅刻・早退	理由の不明確な欠席	事件の発生	
1																									
2																									
3																									
4																									
5																									
6																									
7																									
8																									
9																									
10																									

体制づくりに必要な要素を運用することでチーム支援が適切に展開される

1. のまとめ

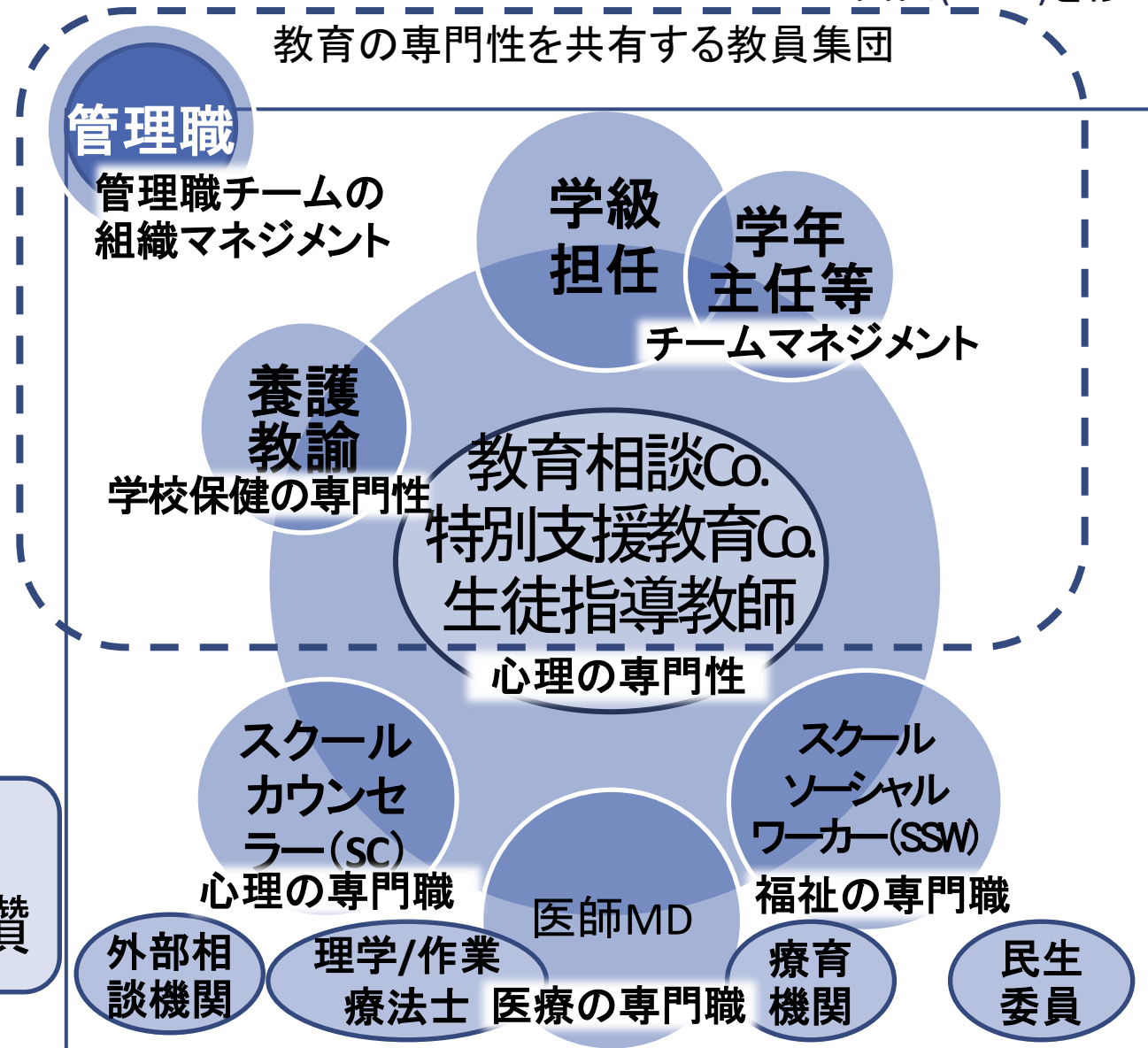
心理に強い教師等が担う児童生徒支援のコーディネーターの役割像:

- 教育の専門家
- 教員免許に裏付けられた教科・領域の専門家
- 心理・福祉・医療等の専門性を理解する仲介的な役割
- 学校文化を外部資源とつなぐ仲介的な役割

心理に強い教師の今後の課題:
専門性の確立・役割像の明確化と研鑽

図表4 多職種協働におけるチーム学校

西山(2018)を修正



2. 地域・保護者とのコンサルテーション・ コーディネーション

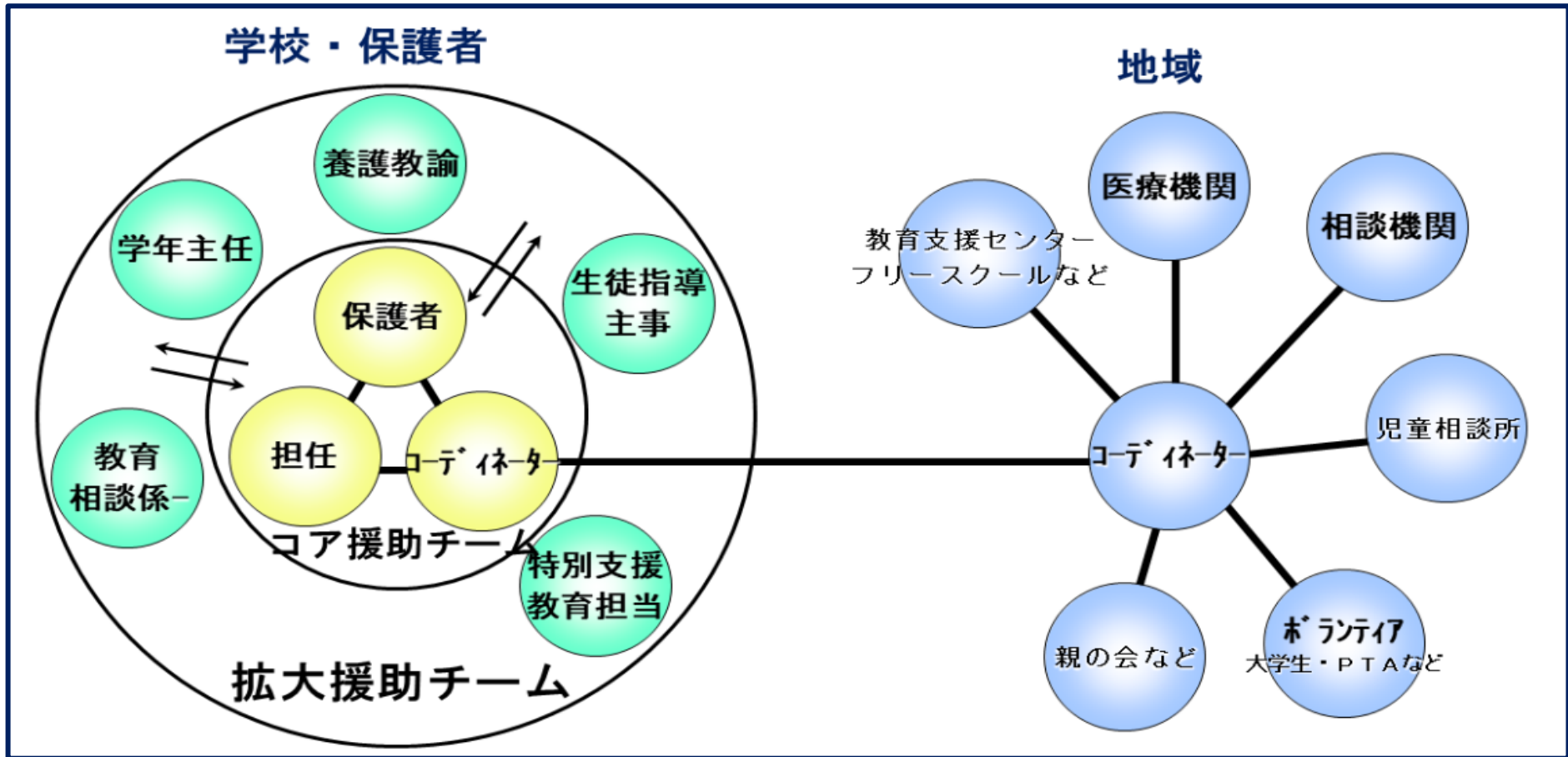
(1) 地域におけるチーム支援：（関係機関との多職種連携）

学校と地域の関係機関（福祉機関、医療機関、教育相談機関等）が連携して児童生徒や保護者の支援を行うこと。

- 教育領域…教育委員会、教育相談センター、教育支援センター、
（巡回相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャル
ワーカー、スクールロイヤー） 等
- 医療・保健領域…病院、クリニック、発達障害者支援センター、
保健センター、保健所等
- 警察・司法領域…警察署、少年サポートセンター、少年鑑別所、
少年院、家庭裁判所等
- 福祉領域…児童相談所、子ども家庭支援センター等
- 産業領域…地域若者サポートステーション等

① ネットワーク型チーム援助とは

拡大援助チームのメンバーが保有するネットワークを通じて広く援助を要請するタイプ。ケースによって複数のコーディネータが存在。

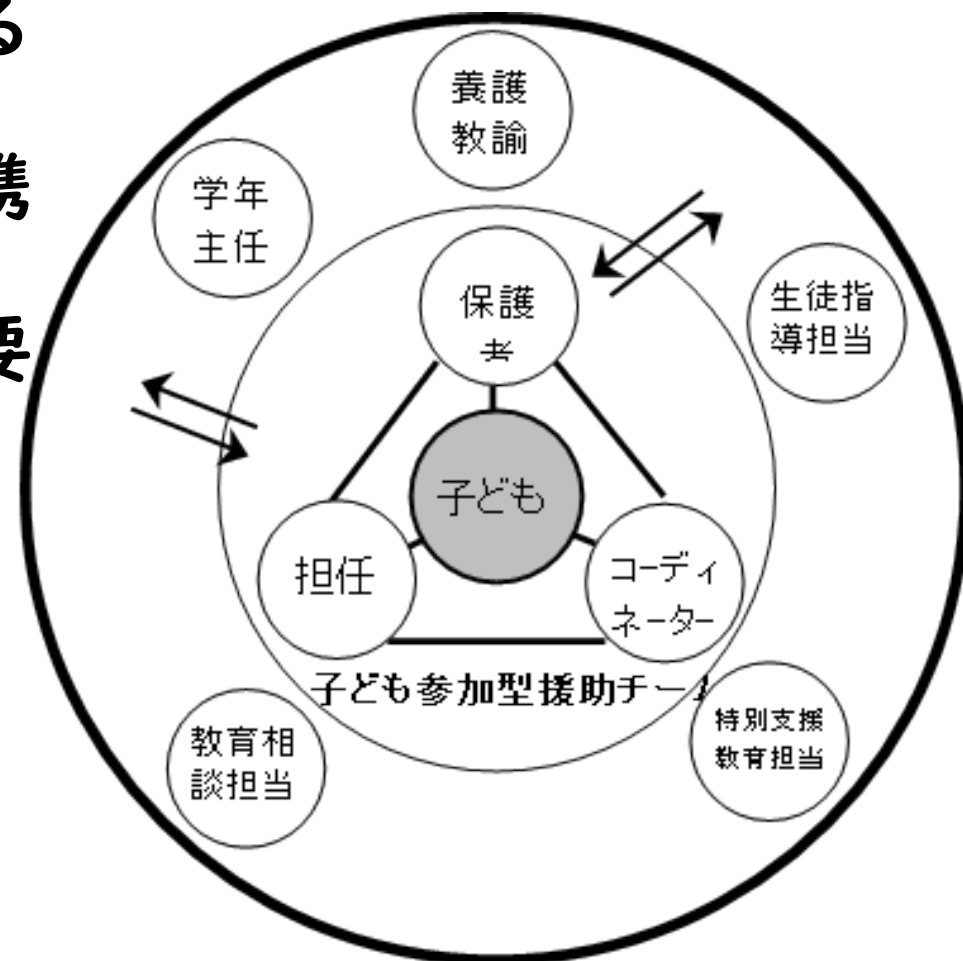


(2) 保護者への支援、および連携

- ・ 保護者の子どもについての悩みや不安に対して学校が保護者への支援を提供することも重要
- ・ 保護者と学校が情報を共有し、密に連携することが生徒支援の成功に繋がる
- ・ 保護者と学校との日頃の情報共有が重要

① 子ども参加型チーム支援

- ・ 当事者である子どもが参加し、子どもの人権を最大限に尊重した支援

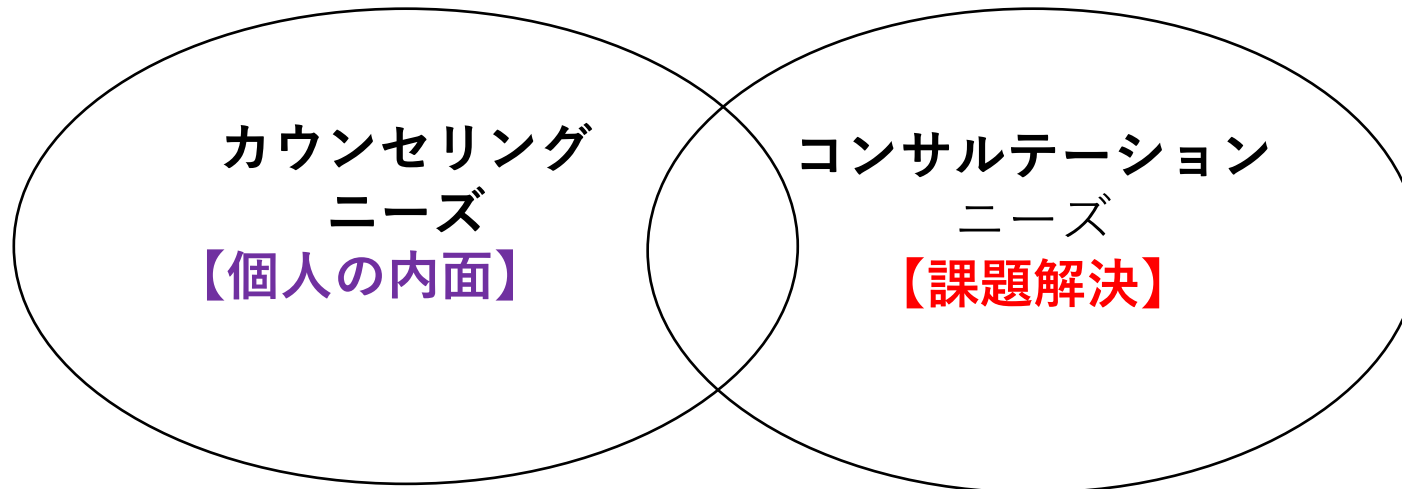


引用：田村・石隈（2017）P.27

②保護者や生徒のニーズの見極め

- カウンセリングニーズ
例「悩みを聞いてほしい。わかってほしい。」
- コンサルテーションニーズ
例「問題状況について解決方法を知りたい。」

見極める



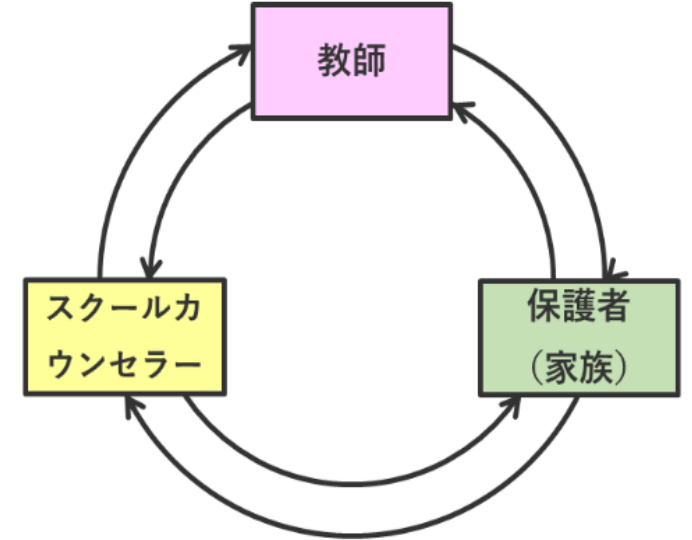
(3) 相互コンサルテーションとは (支援チームでの話し合い)

「異なった専門性や役割をもつ者同士がそれぞれの専門性や役割に基づき、支援の対象である子どもの状況について検討し、今後の援助方針について話し合う作戦会議のことである。」

- ・ コンサルタントとコンサルティの関係が一方向だけではなく相互にもなり得る関係

- ・ 相互コンサルテーションの機能

- ① 情報収集と共有
(アセスメント等)
- ② 共同の意思決定
(援助方針・援助案・役割分担等)
- ③ 責任の共有

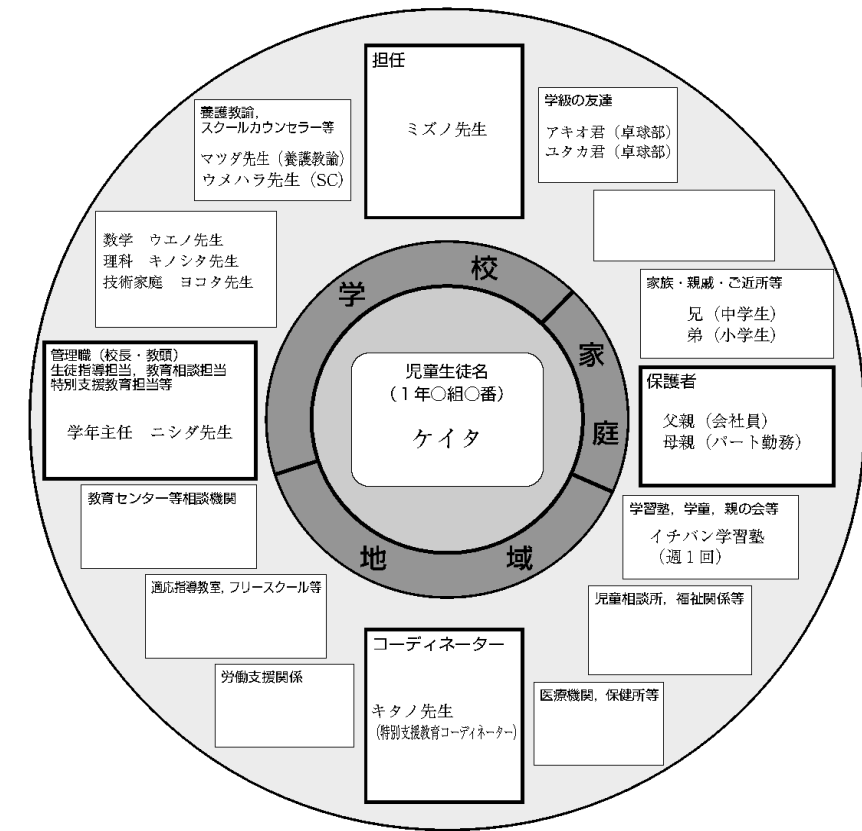


(4) 援助シートとは

- 援助資源チェックシート -

【おもな援助資源】

- ① ボランティア的ヘルパー：友人、隣人等
- ② 役割的ヘルパー：保護者は「自分の子どもの専門家」家族、親戚等
- ③ 複合的ヘルパー：すべての教師教員：生徒指導主事、教育相談コーディネーター、養護教諭、特別支援教育コーディネーター等
- ④ 専門的ヘルパー：（専門スタッフ）SC、SSW、医師等



引用：石隈・田村（2003）一部改変

* 地域のヘルパー：教育相談員、特別支援教育支援員、大学生、ボランティアヘルパー等

-援助チームシート-

実施日 : 2003年01月25日(土) 8時40分~9時25分 第1回
 次回予定 : 2003年02月01日(土) 8時40分~9時30分 第2回
 出席者名 : 眞野 春野詩子

アセスメント

- (A) 自助資源のアセスメント
- (B) 援助ニーズのアセスメント
- (C) これまでの援助結果の把握

援助方針

- (D) 援助方針の決定

援助案

- (E) 援助案の決定
- (F) 援助者の決定
- (G) 援助期間の決定

援助案の立て方のコツ

- * 今すぐできそうな具体的な案を考える。
- * スモールステップで案を考える。
- * 自分が行う案を各自が考える。
「私は〇〇を行います。」

苦戦していること (孤立していると感じている。行事があると憂鬱になる。)

児童生徒氏名	学習面	心理・社会面	進路面	健康面	
1年1組1番 春野 つくし 担任氏名 秋野 きのこ	(学習状況) (学習スタイル) (学力) など	(情緒面) (ストレス対処スタイル) (人間関係) など	(得意なことや趣味) (将来の夢や計画) (進路希望) など	(健康状況) (身体面の様子) など	
情報 のま とめ	(A) しいところ 子どもの自助資源 数学 コンピュータ ものを操作して理解する	友達にやさしい よ気がつく 友達や親にグチを言う 年下の子への面倒見 がよい	パソコンが好き 忍者 将軍の夢や計画 (進路希望)	健康である 食べ物の好き嫌いが 少ない	
(B) 気になるところ 課題が必要なところ	国語の授業で集中し ない 作業 学習意欲の低下	人前で緊張しやすい 友達が少ない 自分から話しかけら れない 孤立しがち	何をしたいか決めか ねている	外遊びや運動をさけ る 物事に執着する 疲れやすい	
(C) してみたこと 今まで行った、あるいは 今行っている課題と、 その結果	本人の希望にそった 放課後の補習。だんだ ん負担になってきてい る様子。	担任による家庭訪問。 少しずつ話しかける ようになってきた。	担任による進路情報 の提示。またあまり関 心を示さない。	親と一緒に外で遊ぶ ようになった。少しず つ元気になってきた。	
援助 方針	(D) この時点での 目標と援助方針	・体力の回復を支える。 ・安心感を与える。			
援 助 案	(E) これからの援助 で何を行うか	①パソコンでの学習を 試みる ②宿題をやろうとする 気持ちをほめる	③「嫌」と言った時に はその気持ちを大切に にする ④気持ちを言語化で きるように関わる ⑤子どもがよいところ 探しをする	⑥通信制の情報を提 供する ⑦子どもの夢を関心を もって聴く	⑧食事のバランスにつ いて保護者に依頼す る ⑨睡眠が十分にとれ ているかどうかを聞く ⑩保健室の簡単な仕 事を手伝ってもら う ⑪健康を継続する ⑫保健室での休息を みとめる
(F) 誰が行うか	①担任、教科担当	①担任、保護者、ス クールカウンセラ	①担任、生徒指導担 当、スクールカウ ンセラ	①担任・保護者・養護 教諭	
(G) いつから いつまで行うか	①今週からとあえず 今月末まで	①今週からとあえず 今月末	①今週から1学期の間 に	①今週からとあえず1 学期	

【演習Ⅰ】 チーム支援に関する 相互コンサルテーションの演習

【目的】

- ① ケイタさんの事例を検討し援助方針や援助案を作成し共通理解する。
- ② 「チーム支援」に関する相互コンサルテーションを体験する。

【事例検討の手順】

教師がグループになり、実際に支援に困っている児童生徒の援助案についてシートを使って考える。

- 参加者 生徒指導部、学年会など。
- 所用時間の目安 約50分前後
- 用意するもの 1) 援助チームシート …参加人数分
2) 援助資源チェックシート…参加人数分

【演習1】

- 1) グループを作る
- 2) 配役を決める (3分)

- ① 4～5人グループを作る。
- ② 次にグループ内の司会者と発表者を決める。
- ③ 司会者から時計回りに簡単な自己紹介をする。

例) 「〇〇小学校の〇〇(氏名)です。
学級担任です。教員経験は〇年です。
よろしく願いいたします。」

【演習Ⅰ】

3) ケイタの事例の説明（5分）

①ケイタのプロフィールと司会者が簡単に説明する。

②援助チームシートA～C欄（3限で作成）を読み上げる。

③援助資源チェックシート（4限で作成）を読み上げる。

*書かれていないことは各自が自由にストーリーを作ってよい。

【演習Ⅰ】

4) 個人で援助チームシートを作成する (5分)

① ケンタに対する援助方針や援助案を自分の立場で考える。

援助チームシートのD欄～F欄

援助方針（とりあえずの援助の大きな柱）について検討する
具体的な援助案を考える

② 援助案は、自分を主語にして考える。

「その子のためには何が必要か」

「自分のもち味を生かしてその子のために自分は何ができるか」

「支援を行うために自分は誰にどうしてほしいのか」

「親や担任に対して自分は何ができるか」等

【演習Ⅰ】

5) ロールプレイの実施 (20分)

- ① 司会者は話し合いのリードを取る

【司会者の台詞】

「司会の●●です。これからこのチームでケイタさんの事例の援助チーム会議を行います。ケイタさんがよりよい学校生活を送ることができるように、すでに3限で集めたアセスメントを元に援助方針と援助案を考えたいと思います。では、●●先生、いかがでしょうか？」

- ② ケイタを支援する方針について話し合う。(目安5分)
- ③ (時間の範囲内で) 支援の具体案を話し合う。(目安12分)

【演習Ⅰ】

6) シェアリング (5分)

- ①それぞれのチーム内でチームで話し合った体験について話す。

7) 発表と質疑応答 (7分)

- ②援助方針・援助案の発表 (2から3つのグループ)
- ③質疑応答

【演習2】チーム支援に関するコーディネーションの演習

別紙ワークシート

①スクリーニング(気になる児童生徒を見出す手続き)

演習：自校の取り組み(スクリーニングに関わる活動を実施していますか)

スクリーニングの例：

- SOSチェックリスト(右記)の定期的実施
- 養護教諭が入学予定者の要録確認
- 年間欠席日数でハイリスク児を把握
- 年度当初の新生向け相談の開室
- …

図表2 SOSチェックリスト(中学生用・名簿形式)

調査日[年 月 日]

No.	氏名	学習面			心理・社会面				進路面			健康面			全般		合計									
		勉強への取り組みの変化	テスト成績の急激な降下	授業中投げやりな態度	授業中ぼんやり	授業中眠ることの増加	自分への否定的イメージ	学校での暗い表情	イライラすることの増加	学級内での孤立	家族との関係の変化	教師に対する態度の変化	服装や言葉遣いの変化	関心をもてる対象の減少	得意なことへの減少	決心がつきにくい		進学についての態度変化	食事の様子の変化	けがや病気	頭痛や腹痛	眠そうな顔	遅刻・早退	理由の不明確な欠席	事件の発生	
1																										
2																										
3																										
4																										
5																										
6																										
7																										

石隈(1999)をもとに修正

【演習2】チーム支援に関するコーディネーションの演習

個人作業(1.5分) ➡ グループ協議(4分) ➡ 全体(2分)

- ワークシートに演習2-1の内容を簡単にメモしてください。
- グループ交流用なので、箇条書きで構いません。

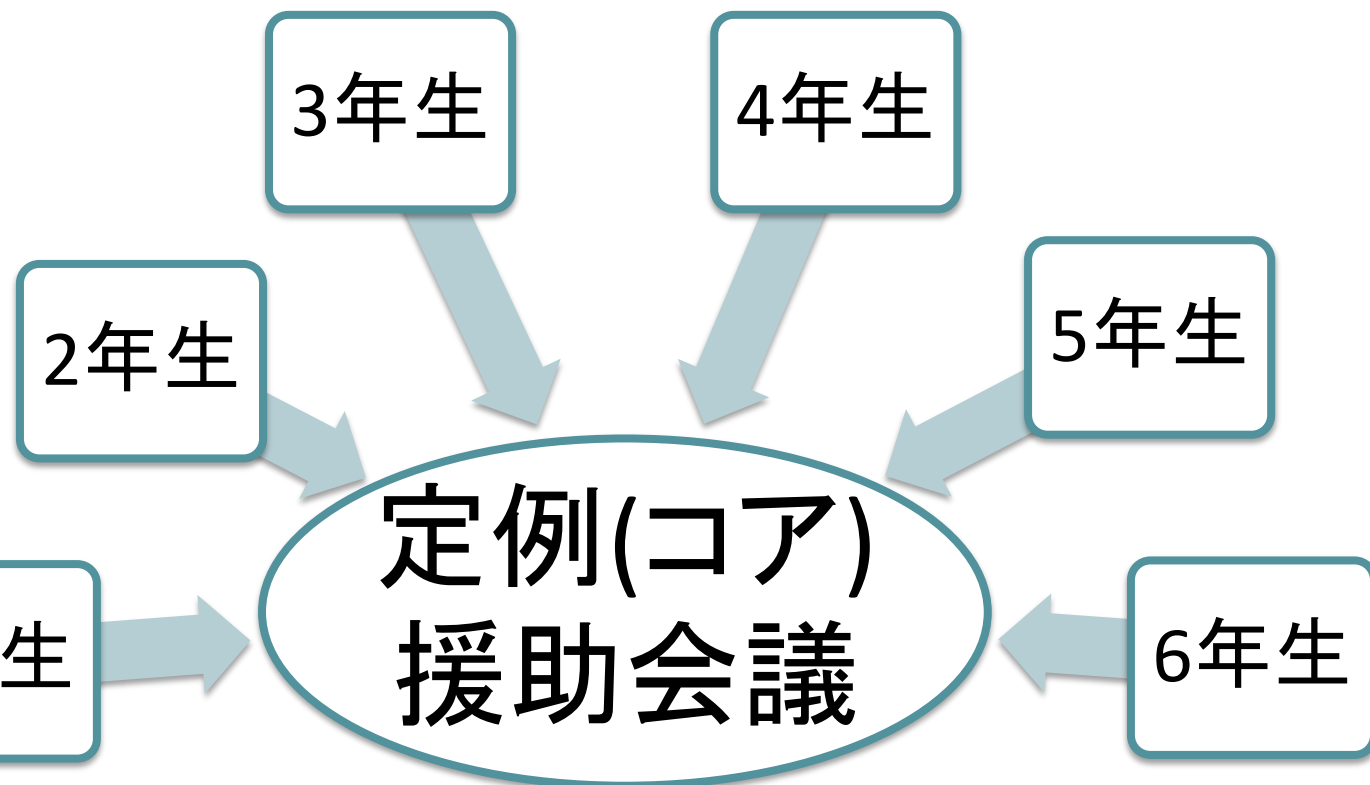
- ワークシートの記入内容を2-3人のグループで共有してください
- 自校との異同や校種等の特長を整理しましょう。

- 興味深い活動があれば、全体に向け共有します。
- 講師のリードで研修を締め括り、メンバーに感謝して終了。

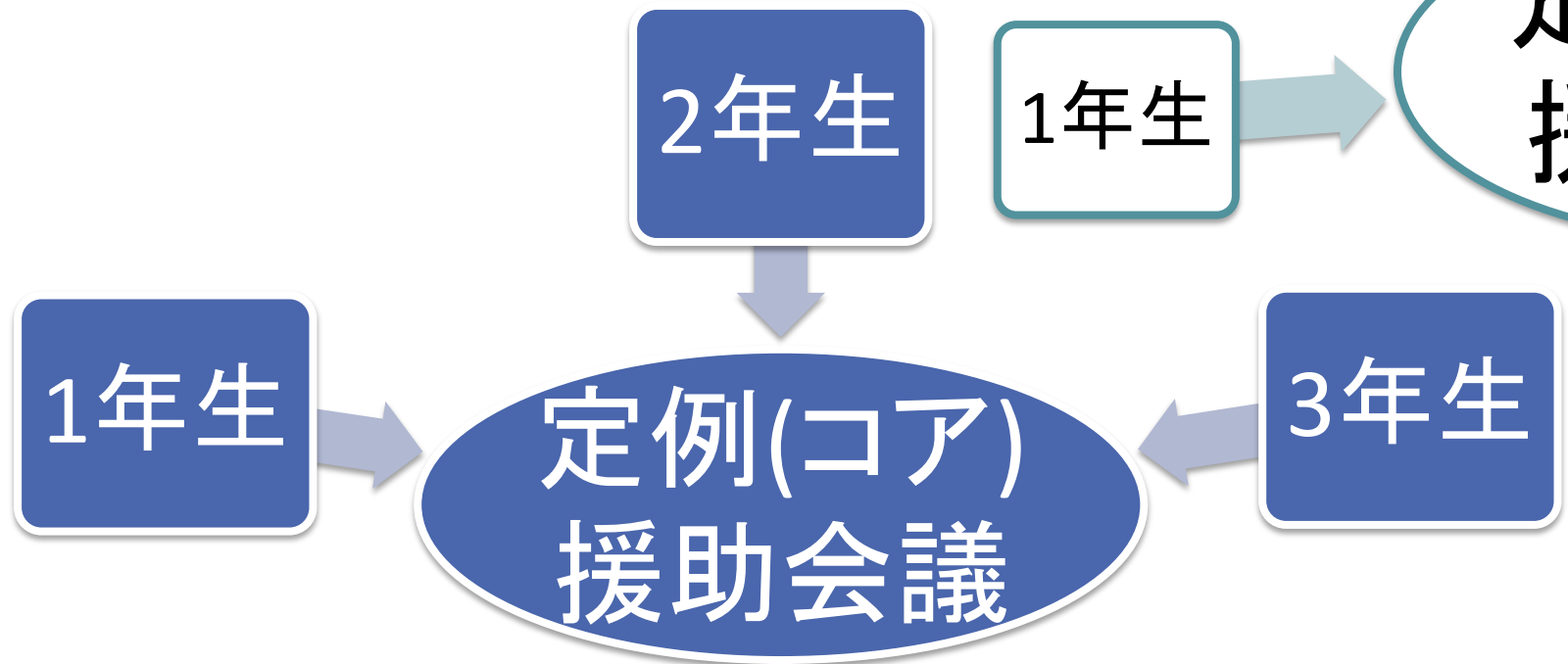
振り返り：チーム支援のコーディネーション

- ① 気になる児童生徒を見出すスクリーニング：他校の実施内容から向上の示唆を得る
- ② 過不足ない構成員によるミーティング：自校の児童生徒支援に関する会議を俯瞰する
- ③ 自校の児童生徒支援の取り組みを向上させられる

校内の適応援助ニーズの 集約 (学年会⇒定例(コア)会議)と 分散 (ケース会議)



小学校におけるチーム援助



中学校・高等学校におけるチーム援助

[引用文献]

- 石隈利紀(1999)『学校心理学』誠信書房 鎌田雅史(2024)「第12章 スクールリーダーのリーダーシップ」弓削洋子・越良子(編著)『学級経営の心理学』ナカニシヤ出版
- 石隈利紀・田村節子(2003)『石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門』図書文化社
- 鎌田雅史(2024)「第12章 スクールリーダーのリーダーシップ」弓削洋子・越良子(編著)『学級経営の心理学』ナカニシヤ出版
- 田村節子・石隈利紀(2017)『子ども参加型チーム援助』図書文化
- 田村節子(2009)『保護者をパートナーとするチーム援助の質的分析』風間書房
- 西山久子(2018)「7章 一次的援助サービスが定着する学校づくり」水野治久他編『チーム学校での効果的な援助』ナカニシヤ出版 PP.62-71
- 西山久子(2025)「心理に強い教員が推進する教育相談体制づくり」月刊学校教育相談3月号 pp.40-45